

平成21年度第2回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成21年7月24日(金)

14時20分～16時10分

場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

1 開 会

2 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会 副会長(上田市)からあいさつ

3 しなの鉄道総合連携計画策定調査事業委託先職員の紹介

(事務局)

財団法人 運輸政策研究機構職員

4 会議成立の報告(事務局)

委員26名中20名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。(協議会規約第6条第2項)

5 協議事項 (議長:副会長 協議会規約第5条第2項、第6条第1項)

(1) しなの鉄道総合連携計画策定調査事業概要について

(財)運輸政策研究機構から(資料1)を説明。

(質問・意見等なし)

(2) 現状分析と問題点の把握について

(財)運輸政策研究機構から(資料2)を説明。

(質問・意見等)

ア・資料2、P41の調査票配布方法について、宛名ラベルを各市町で貼るようになっているが長野市などは1万5千枚あって相当な労力になる。本来、委託事業については委託業者でやっていただくというものではないのでしょうか。宛名ラベルは市で印刷しますので、そのラベルを委託業者に送り、業者に貼っていただくようお願いしたい。

・別紙1の「アンケート調査のお願い」について、この種の調査で一番苦情が多いのは、個人情報(調査対象者の情報)がどこから出ているのかということであり、消費生活センターに相談されるケースもある。関係の市町名と住民基本台帳から情報を得ていることを明記しておいていただきたい。

- ・アンケートを書く方は、どうして調査をしているのか事情が分からないので、旅客人員が減って経営が厳しくなっている状況など調査の必要性を依頼文の中に入れておいた方がいいと思います。
- ・調査票を配布する際にしなの鉄道の時刻表を同封し、乗っていただくきっかけづくりをしたらどうか。

ラベル貼りについては、委託業者にやっていただくという話もありましたが、事前に各市町にお伺いしたところ個人情報の観点からタックシールであっても市町以外に提供することは法の趣旨に反し難しいというお話をお聞きしましたので、各市町において貼っていただく案にいたしました。

なお、沿線住民へのアンケート調査は、各自治体が主体となって実施していただくようお願いしたいと思います。最初は活性化協議会が実施することを考えておりましたが、住民基本台帳を使う以上、個人情報の保護から市町の執行機関以外で実施することは難しいということでしたので、このような方法を考えているところであります。

従いまして、先ほど調査票の中に住民基本台帳から情報の提供を受けていることを明記してほしいというご意見がありましたが、自治体が調査を行うもので提供を受けていることではないという考えで調査票を作っております。

調査票配布票数が多いとのことについては、設定した運輸政策研究機構さんに考えていただくことになろうかと思いますが、調整させていただく方が良いのではないかと感じております。また、佐久市さんなどは面積が広い中でしなの鉄道の駅から半径5kmという対象範囲は少し広すぎるかなと感じておりますのでこれらについては個別に相談させていただきたいと思います。(事務局)

- イ 個人情報保護の観点からというお話がありましたが、市内部で手続き的に解決できれば委託先でやっていただけるということでしょうか。

自治体のOKがいただければ、こちらでタックシールを貼る作業を行うことはかまわないと思っています。(事務局)

- ウ シール貼りについては、別途相談させていただきたい。

相談させていただきますが、たとえば作業員をお手伝いとして行かせることもできるかと思えます。

住民基本台帳の利用については、各自治体によって扱いがまちまちでした。その中で一番可能と思われる方法が今日お示した「案」であり、

できないところがあるならば個別にご意見をお伺いし対応させていただきたいと思えます。

調査のお願いの中に、理由としてしなの鉄道の経営が厳しいことを入れたらどうかのご意見については、記入者が調査票を見ていきなり多くのことが書かれていると記入する気を失ってしまうのではないかと思います。思いさらっと入れておきました。「鉄道利用者の減少に歯止めをかける」ということは現在利用者が減少しているということですが、この辺のところは言われるとおりもう少し言葉を足したいと思えます。(事務局)

- エ P 4 6、旅行者アンケートについて、調査票の配布方法で「主要観光施設（上田城、懐古園等）及び宿泊施設（ホテル・旅館等）」は観光協議会を通して紹介とあるが、上田城、懐古園は行政が管轄しているので行政の方で紹介していただきたい。また、当協議会には宿泊施設は参加していないのでホテル協会、旅館組合を通して紹介していただくよう対応願いたい。

了解しました。(事務局)

- オ P 2 9の表（輸送人員（千人／年度）の実績値と推計値（利用者合計））をみると、利用者数の減少は自動車保有台数と人口の変数とでほぼ一致した係数が出ている。極端に言うとしなの鉄道の利用者は、自動車をやめていただくことを前提にしていかなければ増えないということの実証だと思えます。従って、いろいろな問題はあるかもしれませんが、要は利便性を上げ、自動車を廃止していくということをしていかない限り利用者数は増えないという結論になっているのだらうと思えます。その意味ではアンケート調査はしょうがしまいがあまり意味のないことなのかなとさえ思いますが、人口を増やすことと世帯当たりの自動車数を減らすこと以外に、（利用者数と世帯当たりの自動車保有台数、人口との相関関係が）0.97という係数を踏まえたうえでいろいろなことを考えていかなければならないと感じています。

おっしゃられる通りだと思えます。ただ、P 2 9では決定係数が0.97と非常に高い数値が出ていますが、青線（利用者の実績値）と赤線（世帯当たりの乗用車保有台数と人口を用いた利用者の推定値）とが完全に一致していないということは、これ以外に要因が幾つかあるのだらうと思えます。その辺が分からないので、今回の調査や既存のデータなどを分析して方策を考えてみたいと思えます。説明変数については更に精査してまいります。(事務局)

カ 住民アンケートの中に東京発の最終新幹線のしなの鉄道との接続に関する事項が入っていますが、企業の方から「接続がない」という苦情を相当数いただいている。連携計画策定に係る検討事項の中には企業アンケートについても盛り込まれていたかと思しますので、町も協力しますので是非実施していただきたいと思います。

協力いただけるということでありますので、アンケートの実施か場合によってはヒヤリング等に対応させていただきたいと思います。(運輸政策研究機構)

以前からしなの鉄道にも接続の要望がありますが、鉄道経営の立場からすると最終的にはどのくらいの人に乗っていただけるかということになり、調査票の中でも接続をとった場合に年何回乗っていただけるか質問しています。これをもとに最終的に何人というところまでは引き出し、その結果ペイできるレベルであれば運行ということも考えられます。(事務局)

キ 採算性もありますのでそういうことで結構だと思いますが、しなの鉄道でも考えてくれていることが企業に伝わればよろしいのではないかと思いますのでよろしくをお願いします。

ク 企業の利用者から相当不満が出ています。実際に多く利用しているのは企業であり、従業員は必ずしもそこに住んでいるということではありませんので、調査対象を住民だけということではなく、企業については分けて考えていただくようお願いします。

< 議 長 >

・企業調査をお願いするということによろしいですね。

全ての調査内容についてこの場で決めてしまうのもいかなものかと思いませんし、指摘部分とかご意見を汲み上げるような時間とか手続きが取れないでしょうか。

サイクリング列車に係る調査は、8月1日から同列車の運行が始まりますので待たなしますが、それ以外の調査についてはまだ時間的なゆとりがありますので、よく検討していただきご意見を提出いただければ対応できるかと考えています。(運輸政策研究機構)

< 議 長 >

・いつまでならいいですか。

今月末ぐらいでお願いしたい。(運輸政策研究機構)

<議長>

・今月末と言ってもあと一週間ですが皆さんよろしいですか。

(特に異議なし)

ケ 住民アンケート調査は、当初自治会単位での実施と聞いていたが、方法が変わった。住民基本台帳を使って依頼者を抽出することは結構だが、各市町が9月までの1か月の間にこの作業をこなしていくことになり負担がかかる。ことについてどのように考えてこられたのか。市町を全面に出すのではなく活性化協議会もやっているということで調査の依頼をしていくことが必要かなと思います。それから、調査の趣旨をよく依頼文に書いていただき、高齢者の方にも分かるような方法でお願いしたい。また、調査対象が中学生以上になっているが中学生を対象にする必要があるのか。通学で使っているという観点からだと思うが検討願いたい。

返送の方法は郵送で切手はいらないということですが、投げやりという感じになりはしないか。また、回収率30%でよいのか。調査をやる意義をよく考えていただき、回収率が上がる方法を検討願いたい。

調査の方法について、最初は自治会を通じてと考えていましたが、幾つかの自治体から自治会長さんの負担が大きすぎ難しいとの回答をいただきましたので、住民基本台帳から依頼者を抽出し各自治体に調査をお願いしようということになりました。この方法が、9市町の最大公約数ということで決めさせていただきましたが自治体の負担が大きいことについても承知しております。できるだけ手のかからない方法として、調査票を全て袋詰めしたうえで各市町に送付しますので、タックシールのみを貼っていただければいいようにしてあります。

また、活性協議会がすべてやるべきではないかのご質問ですが、協議会は各自治体さんに設立していただいたものであり、忙しい時に申し訳ないとは思いますが、できることはご協力していただきたいということでこのような方法にした訳でございます。(事務局)

回収率30%の設定についてですが、このような調査は全国各地で実施されており、だいたいこの程度が相場となっています。自治会経由で実施すれば特に田舎では高い回収率になる場合もありますが、そうでない場合は広報に力を入れてもこの程度となっています。回収率を上げるために景品を付けるという方法もありますが、実施主体が市町

であるということから（景品を付けることに）適切性が問われることにもなりかねませんので、今回の案にさせていただきました。（運輸政策研究機構）

調査の趣旨の件につきましては、先ほどの質問にもお答えしましたが、アンケートのお願いの文章が簡単すぎるとのご指摘もありましたので少し加筆させていただきます。ただ、最初からあまり文言が多いと回答する方がいやけをさしてしまう恐れがありますので、その辺のところは工夫して盛り込みたいと思います。（事務局）

< 議 長 >

- ・まだ疑問、質問等があるかと思いますが、よく検討していただき何かあれば来週金曜日（31日）までにしなの鉄道経営企画課の方にお出しいただきたいと思います。

事務局は、訂正等があった場合再度資料を皆さんに送付願います。

（3）新たな旅客需要創出に係る施策の検討について

（財）運輸政策研究機構から（資料3）を説明
質問、意見等なし

（4）その他

ア 信州デスティネーションキャンペーンについて、今年の秋口にはプレキャンペーンがあり来年の10月から12月に本番を向えることになっている。信州に観光客を招致するために各自治体も色々な取り組みをされると思いますが、しなの鉄道としてもかかわりがあるのでしょうか。

しなの鉄道沿線観光協議会としなの鉄道とで取り組んでいくことになっています。先行事例の一つとして本日の資料の中にもありますが「いろいろ軽井沢号」の運行があります。JRから車両をお借りして試験的に運行するものですが、景色がよく見えるようにゆっくり走ってほしい等の要望があればそれらを来年度以降の運行に繋げ誘客したいとのこと。その他にも、JRから共通キップ等の提案があるかと思いますが、あわせて検討してまいります。（事務局）

6 閉 会

以 上